

## 令和元年度第2回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和元年9月26日（木） 13：30～15：00

場 所：江別市民会館 31号

出席委員：北川裕治委員、山田宗親委員、新田雅子委員、尾形良子委員、  
藤本直樹委員、田原久美子委員、岸本佳廣委員、谷川幸雄委員、  
大鹿琢委員、腰原久郎委員、小林徹男委員、赤川和子委員、  
栗重理香委員（計13名）

欠席委員：金子正美委員、岩村ヒロ子委員（計2名）

事務局：企画政策部次長、政策推進課堂前課長、毛利主査、天明屋主査

その他：株式会社北海道二十一世紀総合研究所 河原岳郎氏

傍聴者：3名

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 議事

##### （1）生涯活躍のまち形成事業計画骨子案について

事務局から説明

- ・資料1 江別市生涯活躍のまち形成に関する調査結果報告書

##### 【質疑】

なし

事務局から説明

- ・資料2 江別市生涯活躍のまち形成事業計画骨子案
- ・資料3 江別市生涯活躍のまち形成事業計画案[イメージ]
- ・資料4 形成事業計画へのアンケート結果反映ポイント

##### 【質疑】

○尾形委員

資料4の1ページ（3）「期待される江別市の取組」に「就労相談窓口を設置する」と記載があるが、これはハローワークのことなのか、それとも新たに窓口を設置するということか。

また、ハローワークの他に関連するものとしてシルバー人材センターがあるが、同センターは窓口としてターゲットから外れているのか。

#### ○事務局

1点目については、「江別市の取組」という問いかけをさせていただいているので、ハローワークではなく、拠点エリアに配置されるコーディネーターということになると思うが、どういう機能になるかは今後の検討事項となる。

2点目のシルバー人材センターについてだが、今後、拠点エリアが整備される中で就労の場に関する情報の提供、紹介では連携を図っていきたい。

#### ○北川会長

尾形委員は子ども食堂を行っている。高齢者も参画していると思うので実体験や感想をお聞きしたい。

#### ○尾形委員

就労から外れてしまうが、八丁目プラザのっぼや真願寺で子ども食堂・地域食堂を行っている。月に1回程度活動しており、ボランティアを希望される方もいるが、なかなか定着につながらない。ボランティアの希望があるならば、是非つないでいただけるシステムを作ると良いと思う。

高齢者にもボランティアとして大学生と一緒に手伝っていただいている。最近では家庭で料理をする大学生は少ないが、高齢者のボランティアに教えていただいているので、調理の担当が最も人気がある。ボランティアに行くと様々なことを教えていただけるので勉強になるという大学生の感想もあり、今回のアンケート結果は心強く、積極的にボランティアへの参加をお願いしたい。

#### ○新田委員

地域再生計画と生涯活躍のまち形成事業計画の関係性について簡単に説明していただきたい。

また、資料3の2ページの「2. 区域の設定」に「江別市の全域を想定」と記載があるが、後半には「拠点エリア」という言葉が何度か出てきている。「拠点エリア」と「全域」の関連性を説明する必要があるのではないか。

#### ○事務局

地域再生計画は、当市が平成29年3月に策定した構想の内容を踏まえて、基本的な方向性を示すものとして、国に認定申請するために必要な書類である。地域再生計画に盛り込まれている内容は、形成事業計画と重複する項目もある。形成事業計画は、生涯活躍のまちの形成に関する、より具体的な事業内容の詳細を定めることを目的とした計画である。

地域再生計画については審議会を通すことが求められていないが、形成事業計画については地域再生協議会などで市民に参画していただきながらともに作りあげていくよう国が示しており、より地域の方の意見を反映する計画となる。

また、「拠点エリア」と「全域」の関連性については、整理してわかりやす

く具体的に記載したい。

○藤本委員

資料3の6ページの「3. 個別の事業・取組内容」の生涯学習については、どのような取組やプログラムをイメージしているのか。江別市では高齢者向けに聚楽学園や蒼樹大学などの取組を行っており、大学でもふるさと江別塾や各大学の公開講座を開催している。生涯学習の観点からどのようなメニューを計画の中に盛り込むイメージでいるのか。

また、同ページの「1. 全体概要」に「若年層や高齢者、障がい者などを含めた多様な主体」と記載がある。若年層の中には大学生が含まれていると思うが、市内にある高校との連携や高校生の参画はイメージされているのか。

○事務局

市が生涯学習として想定しているものについて、現状ではアンケート結果にあるように市内4大学と連携させていただいている講座や出前講座などへの参加、子育て世代との交流としてアクティブシニアによる子育て支援、これからできる保育施設と元気な高齢者との交流、農園を活用した交流、パークゴルフ場などのツールを活用したスポーツ活動の推進などをイメージしている。

○谷川委員

大麻北町にあるマンションでは203戸が入っており、489名が住んでいる。平成29年6月の調査では平均年齢が65.2歳だったが、調査から2年が経っており、さらに今後2年ほどで平均年齢が70歳を超える。核家族化や超高齢化が進む中、最近は地域の中で助け合い生きていく意味で地域家族化という言葉が出てきている。そのような視点で物事を考えなければならない。

また、地域環境について、このエリアには野球場やテニスコート、資料館があるが、市ではここを更地にするという構想がある。しかし、ここには「みどりの広場」と呼ばれる地域の人々が交流する場があり、近隣の高齢者は地域のコミュニケーションの場として多く利用しているという背景がある。

高齢化と環境の問題から生活の場をどう守っていくか。マンション管理組合や自治会などと連携を図り、地域の方が生きがいを持ち、「江別に来て良かった」、「江別で一生を終えたい」と思うような地域環境づくりをしなければならない。

○田原委員

アンケート対象者の年代が50～70代となっていたが、これらの年代はもともと就労・学習に意欲がある人が多い。高齢者に江別市内に住み続けてほしいという目標を考えると、80代の方もアンケートの対象としても良かったと

思う。

790名のアンケート回答者のうち、200名が自由回答に記載したというのはすごいことだと思う。自由回答の意見としては、交通の便が悪いこと、店が少ないこと、医療機関の問題、除雪の大変さなどが多く、こうした声に耳を傾けていくことも大切ではないか。

#### ○小林委員

生涯活躍のまちについて調べた中で、弘前版生涯活躍のまち構想を参考に読んでみたが、大学や近隣に大きなまちがあるなど江別市の状況に似ており、その関係性が参考になった。江別市は、市内に人口を留める策を生涯活躍のまちで実現しようとしているが、それだけで良いのか。札幌市の方から最近の江別市は住みやすくなっていると聞くことがあり、移住を考える方が江別市を選ぶきっかけとして浸透していくと良い。生涯活躍のまちにおいて移住促進に力を入れることも重要である。

#### ○北川会長

国の趣旨としては、首都圏から元気なうちに地方に住み替えて活動してもらうとしているが、江別市の趣旨は、やむなく札幌市に転居するという流れから、住み慣れた江別市に住み続けるという流れを作りたいということである。それは他の場所から来る方を止めるのではなく、全国や全道から住み替えていただければ、生涯活躍のまちがさらに良くなると考えている。

#### ○赤川委員

資料4の3ページ（多世代交流）に自由回答として「多世代が生涯活躍のまち構想に参加できるように、今後の事業発展、発信に期待します」とある。広報誌などを通じた発信は一般市民が現在の活動状況を把握できるので、非常に重要である。また、その中に共感できるものがあると、市民の関心が高まるので、それに伴い様々な意見も出るようになると思う。

江別市では病院や除雪などの課題があり、市民の意見を取り入れて江別市がどのように活動しているか発信する必要がある。さらに、江別版生涯活躍のまちの活動の周知も行い、参画を呼びかける必要もある。

#### ○北川会長

生涯活躍のまちに限らず、除雪などについても理解していただくための発信が必要であり、情報共有も重要である。

資料4の4ページ（2）中高年齢者向け住宅に関する事項について、特に金融機関の立場から、大鹿委員、腰原委員より何か意見等あるか。

#### ○大鹿委員

当行では若い世代に向けた商品は充実しているが、高齢者向けの住み替えや終の棲家を求める商品は少ない。リバースモーゲージ関連商品や住宅支援機構

と連携している商品もあるが認知度が低く、相談もあまりないのが現状である。

#### ○腰原委員

以前、住宅ローンを担当していたが、利用者は若い世代が中心であり、ローンの場合は年齢制限もある。高齢者向けのローン、リフォームや建て替えに関する商品はあるが不足しており、問い合わせはあるが、利用までに至らない現状がある。

#### ○尾形委員

アンケートの設問⑪の転居後の住居形態の選択肢に「アパート・マンション」とあるが、高齢者はアパートの契約をすることが難しいので、選択肢に入れない方が良かったのではないかと思う。アパートの契約が難しくない50代もアンケート調査の対象のため、選択肢に入れたのか。

#### ○事務局

ご指摘のとおり高齢者は賃貸契約が難しいが、50代もアンケート調査の対象なので、選択肢としてアパート・マンションという表現をした。しかし、対象者の一部が実質的に難しいため、工夫が必要だったと考える。

#### ○岸本委員

「サービス付き高齢者向け住宅」と記載しているが、低所得者の方の介護を見据えたものから高所得者が対象なものまで多様化している。知り合いの夫婦は戸建てから介護付き有料老人ホームに転居したが、戸建てを売却しても費用が足りなかったようだ。入居する際は、詳細の内容を検討しなければならないと感じた。

拠点エリアのサービス付き高齢者向け住宅の場合は、様々なサービスが受けられると思うので、新しいかたちのサービス付き高齢者向け住宅になることを期待している。大麻地区においては、家を手放したい理由として除雪や庭の管理の問題がある。サービス付き高齢者向け住宅を選ぶ際には、特に戸建てからの転居となると、ある程度の広さやグレードを求めると思う。

また、この部分とは少し離れてしまうが、個別の事業・取組内容の6項目にそれぞれ広いテーマが記載されているが、これだけの事業をどのようなスケジュールで行うのか。旧札幌盲学校跡地、4大学、大麻地区の位置関係と交通や移動の問題などが背景にある中で、この6項目についてコーディネータが1人で取り組むのは難しいのではないか。商店街に拠点を作ってバックアップするのか、大麻出張所にその機能を持たせるのか、市役所はどの程度まで関わるかが肝になっていくと思う。

#### ○北川会長

スケジュールに制約がある中でいかに良いものを作られるかが重要となってくる。国から地方創生推進交付金という、ソフト面の支援があり、コーディ

ネーター費用については一定の支援を受けることになる。コーディネーターの人数や開始日は事業者と相談して決めるが、時期を逃さず行わなければならない。

資料4の5ページ(6) その他の地域住民が生涯にわたり活躍できる魅力ある地域社会の形成を図るために行う事業に関する事項に関連して、大学の公開講座はどのくらい人気があるのか。

#### ○尾形委員

大学の公開講座は地域の方に大勢来ていただいております、人気講座はすぐに満員になってしまう。老人ホーム見学のバスツアーを行った際にはすぐに満員となり、70名ほど断ることになった。こうした公開講座のメニューの周知を行っていただければありがたく、連携が保たれると思う。

また、先ほど、コーディネーターの話が出ていたが一人を想定しているのならば、大変だと思う。

#### ○北川会長

全国の生涯活躍のまちの成功例、失敗例を踏まえて学んでいきたいと思う。地域交流施設などを利用して大学版出前講座などを行い、大学の支援として地元の高齢者とのマッチングができれば、交流の場として活性化できると考えている。

#### ○谷川委員

江別市生涯学習推進協議会では、平成17年から「生涯学習リレー講座」を行っている。これは5人の講師がペアになって開催し、教育的危機を考えるものであるが、50名の枠に60名前後申込みがあった。また、それ以外にも視察研修や「ら・ら・らフェスティバル」という、生涯学習についてのイベントも開催している。これらも活用していただきたいと思う。

#### ○新田委員

8月5日に江別市、市内4大学、江別商工会議所がえべつ未来づくりプラットフォーム連携協定を締結した。(産学官連携・協働の)プラットフォームということで、窓口を設けて大学と地域が連携するパイプをつくることになる。こうした動きも計画に盛り込むと良いと思う。

#### ○栗重委員

北海道では全体的に生涯活躍のまちの取組が進んでいないという現状があるが、函館市では意欲的に進めているところである。江別市の生涯活躍のまちの推進についても、振興局として支援していきたい。

#### ○北川会長

本日いただいたご意見を踏まえて事務局で形成事業計画素案を作成し、次回の協議会で再度協議したいと思う。

○各委員  
(了)

3 その他

○事務局

今後のスケジュールとして、次回第3回協議会と第4回協議会において素案の審議をお願いしたい。素案の審議の後にパブリックコメントを実施させていただき、成案という流れを考えている。

4 閉会